

令和2年緑化推進運動功労者

〔個人〕

あさの たかお
浅野 貴男

(宮城県仙台市)

あまの かずゆき
天野 和幸

(静岡県浜松市)

たに としふみ
谷 敏文

(徳島県美馬市)

〔団体〕

みやこしりつきがくしょうがっこう
宮古市立亀岳小学校

(岩手県宮古市)

みやぎけんりつしえんがっこうこごたこうとうがくえん
宮城県立支援学校小牛田高等学園

(宮城県遠田郡美里町)

しりつたびとちゅうがっこう
いわき市立田人中学校

(福島県いわき市)

ゆめさきびと
夢咲人

(栃木県下都賀郡壬生町)

さいたましはないっぱい運動推進会
さいたま市花いっぱい運動推進会

(埼玉県さいたま市)

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人

(神奈川県横浜市)

どうしすいげんりん
道志水源林ボランティアの会

きそこういきれんごう
木曾広域連合

(長野県木曾郡木曾町)

いのちをつなぐPROJECT ぶろじえくと がくせいじっこういんかい
命をつなぐPROJECT 学生実行委員会

(愛知県名古屋市)

きらがわはなみどりかい
吉良川花と緑の会

(高知県室戸市)

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

(宮崎県えびの市)

えびの工場
えびの工場

[個人]

あさの たかお
浅野 貴男

宮城県仙台市

<功績の概要>

同氏は、昭和 57 年 6 月に「仙台市立将監小学校みどりの少年団」結成に尽力し、結成から現在までの 37 年間にわたり、同団の育成会長として森林環境教育の推進、少年団員育成に取り組んでいる。

さらには、平成 21 年 2 月から現在まで、「宮城県みどりの少年団連盟」会長として県内の少年団の育成にも注力し、植樹活動等を展開している。春・秋の緑の募金では、各地で街頭募金を推進しており、例年 4 月初めに宮城県庁で行われる「緑の募金開始式」に継続的に参加するなど活発に活動をしている。

同連盟の最大の主催行事として毎年開催されている「宮城県みどりの少年団大会」は、少年団員達が自然保護や緑化の大切さを学び、体感する場として有意義な行事となっており、同氏は長年にわたり大会の運営に積極的に関わり、次世代を担う青少年の育成に貢献している。

また、同連盟が東日本大震災の被災地を復興するため実施している「被災海岸防災林の再生」の取組においては、同氏の知識・経験を活かして抵抗性クロマツのコンテナ苗の植栽や下刈作業を実施し、失われた海岸防災林の緑化の一端を担うなど、地域や宮城県全体の緑化の推進に貢献している。

[個人]

あまの かずゆき
天野 和幸

静岡県浜松市

<功績の概要>

同氏は、妻の死をきっかけにバラの栽培を学び、所有する土地を開墾して、平成12年からバラ園「ばらの都苑」をつくり始め、現在に至るまで同園を管理し、約4,000平方メートルの敷地に年間を通じてバラのほか様々な花が咲く季節感溢れる庭園を作り上げている。

同園は現在、全国各地から年間一万人を超える来訪客のある地元の名所となっている。周辺地域からも、校外学習や散歩を目的にして、多くの幼稚園児、小学生、福祉施設入居者等が訪れており、特に子供にとっては、花緑に触れ、観察をしながら遊ぶことのできる重要な学習の場となるなど、地域の活性化に大きく貢献している。

また、平成20年からは小学校の講師を行うほか、卒業記念の行事への苗木の提供を通じて、子供たちの環境学習を支援している。

さらに、同氏は地域の緑化推進に役立てたいとの思いで、自身で育苗したハナモモ等を、病院、学校、公共施設などへ幅広く無償提供し、地域の緑化、憩いの場づくりに貢献するとともに、平成24年から4年間、東日本大震災の復興支援として岩手県の被災地にハナモモを寄贈するなど、被災地の緑化支援にも尽力している。

[個人]

たに としふみ
谷 敏文

徳島県美馬市

<功績の概要>

同氏は、家業の農業に加え、昭和33年、所有林を生かした林業を始めて以来、自家労働力を基本にした専業林家として、60年以上にわたり森林整備や林間栽培などに尽力してきた。

山あいの田畑を活用し、スギを中心とした苗木づくりから林業を始め、これまでに自ら植林した苗木は15万本に及び、現在では所有山林の90%以上の人工林が整備されるに至っている。また、同氏の施業は、早期に仕上げ間伐と枝打ちを行っており、旺盛な下層植生が発達し、地力保全機能の高い森林が造成されるだけでなく、スギ林の中の様々な広葉樹から四季を感じることもできるものである。

昭和54年には本格的な林間栽培に取り組み始め、2haになる栽培地からは高品質なゼンマイ等が収穫されている。現在は、シカやイノシシの食害を受けながらも、獣害保護ネットやシカ等が嫌うとされる草木を使用し、継続的にゼンマイ等の栽培に取り組むとともに、林間栽培の第一人者として、地域の人々への指導等も行っている。また、近年では、ミツマタの苗木育成を新たに始めるなど、飽くなき探求心と自然への愛情を持ち、意欲あふれる活動を続けている。

このほか、地元の学生を中心とした森林環境教育にも尽力し、同氏は、後継者の育成や地域林業の振興、ひいては国土緑化に大きく貢献している。

[団 体]

みやこしりつきがくしょうがっこう
宮古市立亀岳小学校

所在地	岩手県宮古市
代表者	校長 黒澤 ^{くろさわ} みほ子 ^こ

<功績の概要>

同校は、「郷土を愛し伝統を学ぶ学校」、「自然に学ぶ学校」を学校像に掲げ、長年にわたり市指定天然記念物のチョウセンアカシジミの生息環境の保全・観察に取り組み、地域におけるチョウの里づくりに貢献している。

平成8年から、チョウセンアカシジミ幼虫の食樹であるトネリコを学校周辺に植えるなど生育環境の整備をおこない、チョウセンアカシジミの観察会に参加するなど、学習活動に取り組み始めた。以後、チョウセンアカシジミの会代表 尾形洋一氏を講師に迎え、学習・生態の観察活動に継続して取り組んでおり、平成11年からは宮古市教育委員会が毎年度実施している産卵数調査に参加協力し、保護・研究活動の基礎資料の作成にも貢献している。

平成17年からの学校の改築工事に当たっては、食樹の剪定や、代用の食樹の鉢植えの設置、伐採される食樹からの卵の移植作業など、生息環境の維持・保全に取り組むことで、同校はチョウセンアカシジミの安定した生息地となり、地域として年平均4,700個の産卵実績に大きく寄与している。

これらチョウの学習は、児童の自然や郷土への理解や愛着を深めるとともに、家族や地域住民も調査への協力を通じて自然環境保全意識の高揚に繋がっており、同校の功績は高く評価される。

[団 体]

みやぎけんりつしえんがっこうこごたこうとうがくえん
宮城県立支援学校小牛田高等学園

所在地	宮城県遠田郡美里町
代表者	校長 佐藤 弘人

<功績の概要>

同校は義務教育を終えた軽い知的障がい者の社会的・職業的自立に向けた教育機関であり、地域の基幹産業である農業だけでなく、草花の植栽活動を通じた奉仕活動や地域交流を行っている。

同校では、年間2,000鉢以上のパンジーやビオラ、マリーゴールド等の草花の栽培を行っており、校内への植栽をはじめ、これらの草花を活用して、近隣の公園や、老人介護福祉施設等への植栽活動を継続して行っており、地域の緑化や、憩いの場の整備に貢献している。

令和元年度には、町で実施している人権教育に関連して、町内の小学校で行う植栽活動に栽培した花を提供するとともに、小学生と一緒に草花を植栽することを通して、生命の尊さを実感するとともに、豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を育む活動を行っている。

これらの活動は、草花を提供するだけでなく、同校生徒と当該施設・学校等の利用者と一緒に植栽活動や除草作業などを行うことにより、生徒の自然と親しむ心と、地域の緑化活動に積極的に取り組もうとする気持ちを育むものである。

また、地域の企業と連携して、地産地消を意識して育てた野菜の商品化や、廃材を活用した木工製品を制作・販売するなど、循環型社会に向けて自然と共存する在り方を考えさせる取組を地域と連携して積極的に実施している。

しりつ た びとちゅうがっこう
いわき市立田人中学校

所 在 地 福島県いわき市
代 表 者 校長 あいかわ 愛川 まさひろ 政弘

<功績の概要>

同校は、昭和 30 年代から、地元住民の協力のもと、生徒自ら継続的に学校林の手入れを行い、現在、約 4.5ha の森林が健全に生育している。平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災による原発事故の影響により学校林活動は一時的に中断したが、地域住民からの強い呼びかけもあり、平成 28 年に活動を再開した。

同校は、平成 28 年に市内初の「コミュニティ・スクール」に指定され、地域住民との連携を重視した教育を推進している。学校林活動を通して、地域住民より伝統産業である林業、地元の資源である森林についての管理技術や歴史を学ぶとともに、森林を育み、自然環境の保全を実践できる資質の向上に取り組み、地域の担い手となる人材の育成を行っている。

また、学校林活動で生産した木材を利用した木製コースターの製作等を通じ、木材の循環利用を学ぶとともに、震災以降支援を受けている宮崎県の小中学校や、様々な学校行事に参加した地元住民にコースターをプレゼントするなど、地域内外の交流を深めている。

さらに、地域の復興祭「田人ほっこり祭」における伝統芸能等の発表や会場設営・物販に携わる活動、学校ホームページによる学校林活動等の情報発信により、地域住民が学校行事に関わりやすい環境を創出し、地域交流の活性化に貢献している。

[団 体]

ゆめさきびと
夢咲人

所 在 地 栃木県下都賀郡壬生町

代 表 者 代表 石崎 修

<功績の概要>

夢咲人は、栃木県下都賀郡壬生町にある県営とちぎわんぱく公園の中心的施設である「夢花壇」（7,640 m²）を「日本一の花壇にしたい」という目標を掲げ、作業計画や活動内容などをとちぎわんぱく公園管理事務所と決めながら活動している。

花壇の管理活動は、「参加できるときに参加する」方針のもと毎月4回、総勢16名の会員が平成18年から400回以上、13年間にわたり継続的に実施している。

当初は、花壇の植込み、除草といった活動が中心であったが、平成24年の「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰受賞以降は、団体自身が考案したデザインにより花を植え込むなど、管理活動への参画を一層推進している。

このほか、「とちぎグリーンフェスタ」内の「ガーデニングコンテスト」への作品出展等を通じた身近な作品づくりや、地元小学生が同フェスタの会場装飾として実施する寄せ植えづくりの指導等を通じて、緑化活動への普及啓発に貢献している。

さらには、同団体は、県条例に基づく「おもてなしいちご隊」へ登録し、公園来訪者へ花の管理方法を説明するといったおもてなし活動の実施や、他県の先進地の視察、活動団体と交流を行うなど、日々の活動に満足することなく、向上心をもって活動を展開している。

[団 体]

さいたま市^{しはな}花^{うんどうすいしんかい}いっぱい運動推進会

所在地	埼玉県さいたま市
代表者	会長 武藤 哲夫

<功績の概要>

同会は、さいたま市誕生に伴い、平成13年7月、花壇活動を実施していた旧浦和市、大宮市、与野市の3団体の代表の合意により設立され、平成17年には合併した岩槻市の活動団体も加わった。

現在は、市内の公園や駅前、道路沿いの市民花壇等約230か所において、年2回の花の植替えのほか、水やりや枯れた花の摘み取り等の活動を週1～2回程度継続して実施しており、地域環境の美化や景観の向上に大きく貢献している。

また、会員約4,100人の活動を通じ、地域コミュニティの向上に貢献するとともに、一部の花壇では子供たちと共に花の植替えを行うなど、花と緑の豊かなまちづくりを地域一体となって推進している。

加えて、東京2020オリンピック競技大会に向けて、同会では、多くの観光客に花と緑によるおもてなしを実践するため、競技会場周辺や駅前等において、特色ある花壇づくりに取り組んでいる。

このほか、毎年、市民を対象とした花づくり講習会や、子供を対象とする花との親しみを目的としたイベントを開催するなど、緑化思想の普及啓発にも尽力している。

[団 体]

とくていひえいりかつどうほうじんどうしすいげんりん かい
特定非営利活動法人道志水源林ボランティアの会

所在地 神奈川県横浜市
代表者 理事長 村居 次雄

<功績の概要>

同会の活動拠点の山梨県道志村には、横浜市の水源である道志川の源流があり、市が村面積の約36%を水源林として保有し計画的に環境保全を進めているが、残る約60%の民有林は、所有者の高齢化などで十分な管理ができていないため水源涵養機能の低下が懸念されている。

そこで、平成17年に市のボランティア事業の参加者のうち、「近代水道発祥の地、横浜の重要な水源である道志川を守り次世代へ引き継ごう」とする高い志を持った市民が集まり同会を設立し、平成18年に市水道局と協定を締結して市民運営による水源林整備を開始した。平成20年からは、NPO法人の認証を得て、自主的な道志村民有林の保全活動に取り組むとともに、会員に対する間伐技術と安全対策の教育やインストラクターの研修などを実施し、将来に向けた活動の持続化と組織の強化を図っている。

整備活動実績は、延約1万5千人が参加して、約2万3千本の針葉樹を間伐し、約58haを整備して水源涵養機能を高めた。さらに、市民参加の間伐体験や小学生の出前教室などに積極的に取り組み水源保全の大切さの普及啓発に貢献している。同会の活動の資金源である「横浜市水のふるさと道志の森基金」に対する市民や法人からの寄附金は年々増えており、同会に対する社会的な評価や市民の期待は高まっている。

[団 体]

き そ こうい きれんごう
木曾広域連合

所在地	長野県木曾郡木曾町
代表者	連合長 原 久仁男（木曾町長）

<功績の概要>

同連合は、長野県木曾地域（3町3村）における29の行政事務を行う特別地方公共団体であり、平成11年の発足以来「水と緑のふるさとづくり」をテーマに、「木曾川上下流交流の推進」を主要施策の一つとして、下流地域となる愛知県内の自治体を中心に交流事業を展開している。

平成12年には、愛知中部水道企業団（豊明市・日進市・みよし市・長久手市・東郷町の4市1町により設立。以下「企業団」という。）との交流を開始し、平成15年には水源保全を目的として「森林整備協定」を締結し、上下流双方で水道使用量1tあたり1円を基金として積み立て、平成17年から木曾地域の民有林における間伐等への補助を開始した。令和2年3月までの15年間で約10,800haの民有林の整備を実施し、令和7年迄に14,000haの整備を目標として継続的に活動している。

また、交流活動として、企業団管内住民が毎年2回（春・秋）木曾を訪れての植樹・育樹活動や、毎秋企業団管内各市町で開催される「産業まつり」での森林整備啓発活動を実施するほか、近年では愛知用水利用地域（春日井市、瀬戸市、南知多町）との交流を始めるなど、設立から20年を迎え、交流活動範囲や事業も増加し、下流域住民へ水源地の森林整備の重要性について、より活発な啓発活動を展開している。

[団 体]

いのち ぶろじえくと がくせいじっこういいんかい
命をつなぐPROJECT 学生実行委員会

所在地 愛知県名古屋市
代表者 くるみや ちはる
久留宮 小春

<功績の概要>

同委員会では、知多半島臨海部等に立地する連携企業 12 社の企業緑地を地域本来の自然に再生するため、学生ならではの視点で連携企業に対して具体的な取組を提案し、企業とともにビオトープをテーマとした「つなぎの水辺作戦」、生きものの住処を整備する「いきものアパート作戦」、動物達の安全な移動経路を考える「イノチの抜け道作戦」等による緑地管理に取り組んでおり、地域の生物多様性の向上や生態系ネットワークの形成に貢献している。

また、連携企業が地元住民に緑地の魅力を体感してもらうため開催する緑地公開イベントや、知多半島で開催されるその他のイベント等にも積極的に参加し、地域の魅力を発掘している。

この「命をつなぐPROJECT」は、企業、NPO、学生、行政等の多様な主体の協働による取組であり、近年では知多半島を飛び出し県内全域に活動の域を拡げるなど、愛知県内でも先進的な取組として注目が集まっている。

活動の様子は、学生自身による取材、編集により発行されているフリーペーパー「ecoReco aichi」に記事として掲載されており、駅への設置やイベント等での配布により、地域住民等に対して企業緑地や地域の魅力を伝えるとともに、生物多様性や生態系ネットワークの重要性を発信している。

[団 体]

き ら がわはな みどり かい
吉良川花と緑の会

所 在 地 高知県室戸市
代 表 者 世話人 大久保 節

<功績の概要>

同会は、国道のバイパス整備を契機に「道路沿いに花を植えて通行する方たちにも楽しんでもらえるようにしよう」との思いから始まった団体であり、平成 11 年 3 月から一般国道 55 号の西灘バイパス工事完了後より活動をはじめ、現在 63 名の会員が国道の花壇の植栽管理や除草、清掃等を行っている。

「吉良川に来ていただいた方がほっと一息つけて、花を堪能していただけるように」を合言葉に、吉良川大橋東詰や東の川側道橋西詰にある花壇を含め、5 か所の花壇で植栽管理や除草、清掃等による良好な管理を行うとともに、花壇の中にある四阿や休憩所あずまやの管理も行っており、四国八十八箇所を巡るお遍路さんへの安らぎ場所の提供にも寄与している。

また、同会は、自らの活動のみならず、自分たちの住む吉良川の町並みの環境を美しく保つとともに、思いやりのある子供たちに育て貰いたいとの思いから、地元の吉良川中学校と一緒に緑化活動を行い、地域と連携した後継者育成にも自発的に取り組んでいる。

なお、同団体は、平成 12 年から国土交通省が取組を進めているボランティア・サポート・プログラムを活用し、土佐国道事務所長と室戸市長との三者で協定を結んでおり、当該花壇の活動認定団体として、現在も継続的な活動を実施している。

[団 体]

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 かぶしきがいしゃ えびの工場 こうじょう

所在地 宮崎県えびの市
代表者 代表取締役 カリン・ドラガン

<功績の概要>

同工場は、平成 17 年 10 月に操業開始し、「豊かな自然環境と調和し、地域に開かれた公園工場」をコンセプトに、公園や見学者受入施設等の一般開放エリアを設けている。

構内に設置した公園を芝生や樹木で整備し、敷地中央の約 2.6ha の広大な花畑には、春はナノハナ、夏はヒマワリ、秋はコスモスと季節の花を植栽し、来場者を楽しませている。

また、工場で地下水を利用していることから、工場の水源地域において、平成 20 年から宮崎県の「企業の森林づくり」制度を活用し、えびの市や森林組合と協定を結び森林保全活動を実施している。平成 26 年 11 月からは活動面積を 2 ha から 203 ha と大幅に拡大し、毎年、従業員や家族、地域ボランティアなど約 100 名で樹木の植栽や間伐・下刈りを行うほか、竹林整備を実施している。

さらに、公園内の芝生広場を地元の学校にサッカー場として無償で貸し出したり、地域内のイベント会場や「さわやかサマースクール」という自然環境での体験活動の場として提供するなど、地域協同の取組を積極的に行っている。

以上のように、同工場は設立時から「地域に開かれた公園工場」として緑化の推進に尽力している。